

令和2年度事業報告

新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、緊急事態宣言の発出等により外出自粛、海外からの観光客の入国禁止、イベント参加者や飲食時間の制限が実施されたことで飲食業や観光業を中心に我が国の経済は大きく落ち込んだまま、回復の見通しが立たない1年でした。また、畜産では、高病原性鳥インフルエンザが全国に拡大し、本県でも5年ぶりに64万羽を飼育する農場で発生、全国で約1000万羽を処分する事態となりました。さらに豚熱も全国で散発し、近隣県まで感染が広がりましたが、畜産農家の管理体制の強化により家畜伝染病の感染拡大や発生は防止できました。

畜産分野では、年度当初は新型コロナウイルス感染症の影響で全ての畜種で価格、販売額とも大きく減少しました。特に、肥育牛は大きく下落しましたが、G o T o トラベルやG o T o イート等の消費拡大キャンペーンや家庭内需要の高まりにより回復してきました。しかし依然マルキン事業の補填金により経営が維持される状況が続いております。一方、T P P 関連対策として国が措置した生産基盤強化への取組が進み、酪農や繁殖和牛農家の生産量、頭数が拡大する成果も見られました。

本協会では、コロナ禍で業務執行が制限される中、国、県を始め農畜産業振興機構や中央畜産会の補助事業に取り組む他、今日の情勢下で必要とされる公募事業に積極的に応募し事業を実施しました。

経営対策では、肥育牛の緊急支援対策に取り組むとともに畜産クラスター事業による施設や機械整備、酪農の収益力強化と労働負担軽減に向けた搾乳ロボットやI C T の導入、肉用牛の生産基盤拡大に向けた増頭推進、肥育牛や子牛の価格安定制度の適切な運用、和牛入門講座による担い手の育成、女性リーダー育成のための研修会など畜産経営の安定と持続的な発展に向けた支援活動を行いました。さらに、畜産農家の経営診断を積極的に実施し、分析と対策を提案することで、経営改善を促しました。

衛生対策では、県内で発生した高病原性鳥インフルエンザの防疫措置への協力を始め、牛ウイルス性下痢の清浄化、牛異常産等各種ワクチンの接種推進など家畜伝染性疾病の発生・まん延防止や海外悪性伝染病の発生時のリスク抑制のための家畜防疫互助基金の造成に取り組みました。

また、安全安心な畜産物生産のための農場H A C C P 認証の取得推進、安全で公正な生乳の生産流通を支える厳正な生乳検査など、消費者から信頼され求められる畜産業の維持発展に努めました。

終始ご指導とご協力をいただいた農林水産省及び中央団体、そして岡山県及び県内関係機関の皆様に心からお礼を申し上げます。

各事業の実施内容は次のとおりです。

1 総会及び役員会

(1) 総会

期 日	場 所	内 容
定時総会 令和2年6月15日	ピュアリテイまきび 「孔雀」	議 事 第1号議案 令和元年度事業報告及び決算について 第2号議案 令和2年度事業計画及び予算について 第3号議案 令和2年度会費の額及び徴収方法について 第4号議案 令和2年度借入金最高限度額について 第5号議案 令和2年度役員報酬の支給額について 第6号議案 その他 報 告 事 項 公益目的支出計画実施報告について 公益目的支出計画実施期間の変更について

(2) 理事会

期 日	場 所	内 容
令和2年5月27日	岡山県農業会館2階 全国農業協同組合連 合会岡山県本部 第1会議室	議 事 第1号議案 令和元年度事業報告及び決算について 第2号議案 令和2年度事業計画及び予算並びに関連項目につ いて 第3号議案 公益目的支出計画実施報告について 第4号議案 公益目的支出計画実施期間の変更について 第5号議案 肉用牛肥育経営安定交付金制度業務方法書の一部 改正について 第6号議案 肉用子牛生産者補給金制度に係る業務対象年間終 了時の生産者積立準備金の処理について 第7号議案 定時総会提出議案について 第8号議案 その他
令和2年6月15日	ピュアリテイまきび 「ルビー」	議 事 第1号議案 役員報酬の支給について 第2号議案 資金運用管理規程の一部改正について 第3号議案 その他
令和2年11月13日	岡山県農業会館2階 全国農業協同組合連 合会岡山県本部 第1会議室	報 告 事 項 代表理事の職務執行状況報告について 業務執行理事の職務執行状況報告について 酪農ヘルパー積立資産と肉用牛ヘルパー積立資産 の統合について 議 事 第1号議案 令和2年度予算の補正について 第2号議案 令和2年度上期事業実施状況と下期の見通しにつ いて 第3号議案 その他

期 日	場 所	内 容
令和3年3月16日	岡山県農業会館2階 全国農業協同組合連 合会岡山県本部 第1会議室	報 告 事 項 令和2年度事業実績及び決算の見込みについて 令和2年度債権運用状況報告について 公益目的支出計画実施期間変更の許可について 代表理事の職務執行状況報告について 業務執行理事の職務執行状況報告について 議 事 第1号議案 令和3年度事業計画及び予算について 第2号議案 令和3年度執行体制について 第3号議案 役員推薦委員の選任について 第4号議案 その他

(3) 監事会

期 日	場 所	内 容
令和2年5月25日	岡山県農業会館5階 畜産協会役員室	令和元年度事業報告、計算書類及びその附属明細書、公益目的支出計画実施報告

2 事業実績

(1) 事業概要

本協会は、畜産経営の安定的発展と畜産の振興に寄与することを目的に以下の5種類の事業を実施した。

- ① 畜産経営安定のための経営技術支援、調査研究、情報提供、技術知識の普及啓発
- ② 一般消費者等への畜産及び畜産物の各種情報提供、知識の普及・啓発
- ③ 畜産経営の安定のための各種補てん金、補給金の交付
- ④ 家畜の健康保持及び畜産物の生産衛生に係る技術指導及び自衛防疫の推進並びに死亡獣畜の適正処理に関する支援
- ⑤ 生乳取引の公正化のための検査及び生乳品質向上の指導

(2) 公益目的事業

1) 公益目的事業1

畜産経営の安定と、安全な畜産物の安定供給に資するための事業を実施した。

事業名	事業概要	実施内容
自衛防疫活動強化 対策支援事業 (岡山県畜産協会)	・家畜伝染病の発生を予防するため、牛異常産ワクチンの接種を推進した。また、農家等の農場HACCP認証取得支援等を実施し、自衛防疫活動の促進と生産性の向上を図った。 ・家畜疾病の予防や暑熱対策を行うため、石灰乳塗布機を畜産農家に貸し出した。	① 牛異常産ワクチン接種推進 11,348 頭 ② 農場HACCP認証取得支援 3 農場 ③ 石灰乳塗布機貸出 4 農場

2) 公益目的事業2

酪農収益の改善に資するため、生乳品質向上の指導を実施した。

事業名	事業概要	実施内容
生乳品質向上対策 事業 (岡山県畜産協会)	・粗飼料自給率の高い農家について、土壌検査を実施するなど、生乳成分や衛生品質の向上を支援した。	乳質改善指導支援のための検査実施 土壌検査の実施 27戸 74点

(3) 継続事業

1) 継続事業1

畜産経営の安定に資するため、経営技術支援、調査、情報提供、技術知識の普及啓発事業を次のとおり実施した。

事業名	事業概要	実施内容
畜産経営技術高度化促進事業 (岡山県)	<p>本年度、県が策定する「岡山県酪農・肉用牛生産近代化計画書」の作成支援とともに、引き続きその目標達成を念頭に、畜産経営の経営診断を通じた現状分析や、関係機関と連携した効果的な支援・指導活動を行った。</p> <p>酪農経営支援チーム活動では、乳質や繁殖の改善対策、また機械導入事業に係る妥当性の検証や導入成果の評価支援を実施した。さらに、経営診断技術習得や作業事故防止の研修を開催した。</p> <p>岡山和牛資質向上対策協議会活動では、継続的な岡山和牛推奨子牛の展示等により生産者に取組等の浸透を図ったが、本年度の適合率は18.7%であった。</p> <p>また、後継者育成を図るため、(公財)中国四国酪農大学校のオープンキャンパスにおいて畜産セミナーを開催した。</p>	酪農経営支援チーム 県チーム推進会議等 5回 和牛子牛資質向上対策協議会 幹事会等 15回 セミナー開催 2回 個別支援 35件 個別経営調査 20件 (内酪肉近代化計画策定のための調査 11件) HPアクセス数 1,103,480ページ
畜産特別資金推進指導事業 (中央畜産会)	<p>畜産特別資金借受者の経営体質強化のため、定期的な経営状況の把握を行うとともに、経営分析に基づく指導及び濃密指導を実施し、融資機関に対する指導を行った。</p>	協議会開催 5回 濃密指導 2戸 現地指導等 3戸 セミナー 1回
岡山県畜産ヘルパー事業円滑化対策事業 (岡山県、市町村、関係団体)	<p>県、関係団体で造成した基金を活用して、以下のヘルパー活動に対し助成した。</p> <p>①ヘルパー派遣活動 ②酪農経営安定化支援ヘルパー事業で取り組む事業</p>	酪農ヘルパー派遣旅費の一部及び安定化支援ヘルパー事業に係る自己負担部分の一部に対する支援 出役活動費等助成 2,295千円
酪農経営安定化支援ヘルパー事業 (農畜産業振興機構)	<p>ゆとりある生産性の高い酪農経営の実現及び担い手の確保に資するため、以下の事業を実施した。</p> <p>①酪農の担い手となる酪農ヘルパー人材育成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酪農ヘルパー実践研修手当支援 ・酪農ヘルパー資質向上を図るための研修会の開催 ・臨時ヘルパー実践研修者の住宅・通勤手当支援 ・臨時ヘルパー出役経費支援 <p>②傷病時利用の円滑化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互助制度に基づく酪農ヘルパー料金の負担軽減 <p>③利用組合の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会の開催 ・広域利用等による出役調整 ・傷害補償保険及び財物賠償保険の加入促進 ・防疫計画作成及び防疫機器等の整備 	臨時出役 1回1,000円 ×807回/年/人 傷病利用 延べ51人 ヘルパー事業強化検討会の開催 2回 ヘルパー研修会 2回 総距離30km以上の派遣に対する燃料費支援 3,297千円 保険料に対する補助 723千円 防疫資材導入補助 163千円 防疫対策会議開催 1回

事業名	事業概要	実施内容						
肉用牛経営安定対策補完事業 (農畜産業振興機構)	肉用牛生産基盤の安定化を図るため、優良雌牛の増頭や簡易牛舎等の整備、肉用牛ヘルパー組織活動の取組に対し、補助金、奨励金を交付した。 なお、生産基盤拡大加速化事業が新設されたため、本事業での対象牛は、計画を下回った。 ①中核的担い手育成増頭推進 (増頭奨励金) ②簡易牛舎等の整備 (建築・資材導入経費補助) ③肉用牛ヘルパー推進 (活動経費補助) また、本事業の適正かつ円滑な推進を図るための調査・指導等を行った。	①中核増頭 26頭 (JA岡山、JA晴れの国岡山) ②簡易牛舎 2棟 (びほく和牛生産部会、JA晴れの国岡山) ③ヘルパー組合 2組合 (新見市和牛改良組合、津山肉用牛ヘルパー組合)						
広報事業	「岡山畜産便り」を編集・発行し、県内外の指導者、畜産経営者に販売するとともに、中央畜産会が発行する畜産コンサルタント誌等畜産関係優良図書を斡旋した。	畜産便り 年6回発行 1回 720部						
畜産振興対策事業 (岡山県畜産協会)	県枝肉共進会に職員の派遣等の支援を行った。	枝肉共進会 2名						
和牛の担い手高度化支援強化事業 (全国競馬・畜産振興会)	和牛繁殖経営の生産基盤強化を図るために、新規就農者の確保・育成を図る和牛入門講座とともに、繁殖経営に参入し10年以内の生産者等を対象にスキルアップを目指す和牛未来塾を開催した。 あわせて、経営診断と経営計画の作成を支援し、意欲と技術に富む担い手を育成し、繁殖和牛の増頭につなげた。 (事業実施期間 3年間 平成30～令和2年度) <table border="1" data-bbox="432 1312 1051 1413"> <thead> <tr> <th>入門講座総受講者数</th> <th>うち新規就農者数</th> <th>増頭効果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>122人</td> <td>30人</td> <td>609頭</td> </tr> </tbody> </table>	入門講座総受講者数	うち新規就農者数	増頭効果	122人	30人	609頭	和牛入門講座 参加者 6名 研修会 1回 牧場体験実習 6名×1回 和牛未来塾 参加者 20名 研修会 3回 経営診断と計画の作成 15件 就農事例集の作成
入門講座総受講者数	うち新規就農者数	増頭効果						
122人	30人	609頭						
地域畜産生産性向上対策事業 (岡山県畜産協会)	肉用牛経営の活性化を図るため、関係機関との連携のもと、生産性向上の地域勉強会や先進事例の調査・分析を行い、肉用牛経営の収益性の向上と生産基盤の強化に取り組んだ。	研修会開催 9回 参加者 延べ155名						

2) 継続事業2

畜産経営の安定に資するため、各種補填金、補給金を交付する事業を以下のとおり実施した。

事業名	事業概要	実施内容																																																																								
肉用牛肥育経営 安定交付金制度 (農畜産業振興 機構)	<p>肉用牛肥育経営の安定化と肉用牛生産基盤の拡大に資するため、あらかじめ個体登録され、出荷した肉用牛に対し、その月毎の粗収益が生産費を下回った場合、その差額の9割について、交付金を交付するとともに、事業の推進指導を行った。</p> <p>なお、交付金額に4分の1を乗じた額を生産者積立金より支払うものとする。</p> <p>○生産者負担金単価 (単位：円/頭)</p> <table border="1" data-bbox="427 770 1072 1025"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>肉専用種</th> <th>交雑種</th> <th>乳用種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">令和2 年4月 ～令和 3年3 月</td> <td>県</td> <td>6,000</td> <td>2,100</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>生産者</td> <td>50,000</td> <td>17,900</td> <td>17,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>56,000</td> <td>20,000</td> <td>19,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>ただし、令和2年4月よりコロナウイルス感染症に対する支援対策として、生産者負担金の納付猶予が実施されている。</p> <p>○交付金単価 (単位：円/頭)</p> <table border="1" data-bbox="399 1308 1101 1928"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>肉専用種</th> <th>交雑種</th> <th>乳用種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="12">令和2年</td> <td>1月</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>47,339.1</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>—</td> <td>24,121.8</td> <td>39,319.2</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>145,554.3</td> <td>116,715.6</td> <td>54,502.5</td> </tr> <tr> <td>4月</td> <td>216,598.5</td> <td>148,130.1</td> <td>52,151.1</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>193,852.8</td> <td>146,220.3</td> <td>46,925.1</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>196,247.7</td> <td>190,413.9</td> <td>48,078.9</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>135,409.5</td> <td>180,387.9</td> <td>39,031.2</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>138,870.0</td> <td>153,076.5</td> <td>51,616.8</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>100,403.1</td> <td>163,894.5</td> <td>39,206.7</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>46,864.8</td> <td>131,468.4</td> <td>37,969.2</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>—</td> <td>79,365.6</td> <td>38,144.7</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>—</td> <td>29,124.9</td> <td>38,791.8</td> </tr> </tbody> </table>			肉専用種	交雑種	乳用種	令和2 年4月 ～令和 3年3 月	県	6,000	2,100	2,000	生産者	50,000	17,900	17,000	合計	56,000	20,000	19,000			肉専用種	交雑種	乳用種	令和2年	1月	—	—	47,339.1	2月	—	24,121.8	39,319.2	3月	145,554.3	116,715.6	54,502.5	4月	216,598.5	148,130.1	52,151.1	5月	193,852.8	146,220.3	46,925.1	6月	196,247.7	190,413.9	48,078.9	7月	135,409.5	180,387.9	39,031.2	8月	138,870.0	153,076.5	51,616.8	9月	100,403.1	163,894.5	39,206.7	10月	46,864.8	131,468.4	37,969.2	11月	—	79,365.6	38,144.7	12月	—	29,124.9	38,791.8	<p>個体登録頭数 (令和2年4月～令和3年3月)</p> <p>肉専用種 3,042 頭 交雑種 8,930 頭 乳用種 2,567 頭 合計 14,539 頭</p> <p>補填金交付実績 (令和2年1月～令和2年12月販売分)</p> <p>肉専用種 1,960 頭 279,280,124 円</p> <p>交雑種 8,135 頭 1,010,051,365 円</p> <p>乳用種 2,641 頭 117,379,276 円</p> <p>合計 12,736 頭 1,406,710,765 円</p>
		肉専用種	交雑種	乳用種																																																																						
令和2 年4月 ～令和 3年3 月	県	6,000	2,100	2,000																																																																						
	生産者	50,000	17,900	17,000																																																																						
	合計	56,000	20,000	19,000																																																																						
		肉専用種	交雑種	乳用種																																																																						
令和2年	1月	—	—	47,339.1																																																																						
	2月	—	24,121.8	39,319.2																																																																						
	3月	145,554.3	116,715.6	54,502.5																																																																						
	4月	216,598.5	148,130.1	52,151.1																																																																						
	5月	193,852.8	146,220.3	46,925.1																																																																						
	6月	196,247.7	190,413.9	48,078.9																																																																						
	7月	135,409.5	180,387.9	39,031.2																																																																						
	8月	138,870.0	153,076.5	51,616.8																																																																						
	9月	100,403.1	163,894.5	39,206.7																																																																						
	10月	46,864.8	131,468.4	37,969.2																																																																						
	11月	—	79,365.6	38,144.7																																																																						
	12月	—	29,124.9	38,791.8																																																																						

事業名	事業概要	実施内容															
肉用子牛生産者補給金制度 （農畜産業振興機構）	<p>肉用子牛生産の安定を図るため、肉用子牛の四半期毎の平均売買価格が保証基準価格（合理化目標価格）を下回った場合、当該四半期に販売又は自家保留された肉用子牛を対象に、生産者補給金を交付する制度であるが、コロナ禍の影響で一時価格が低下したものの、概ね堅調に推移したことから、補給金の交付はなかった。</p> <table border="1" data-bbox="405 562 1059 748"> <thead> <tr> <th></th> <th>黒毛和種</th> <th>その他の肉専用種</th> <th>交雑種</th> <th>乳用種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保証基準価格</td> <td>541,000</td> <td>320,000</td> <td>274,000</td> <td>164,000</td> </tr> <tr> <td>合理化目標価格</td> <td>429,000</td> <td>253,000</td> <td>216,000</td> <td>110,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>（業務対象期間 5年間 令和2～6年度）</p>		黒毛和種	その他の肉専用種	交雑種	乳用種	保証基準価格	541,000	320,000	274,000	164,000	合理化目標価格	429,000	253,000	216,000	110,000	個体登録頭数 （令和2年1月～12月） <ul style="list-style-type: none"> ・黒毛和種 3,633頭 ・交雑種 2,923頭 ・乳用種 469頭 ・その他の肉専用種 0頭 計 7,025頭
	黒毛和種	その他の肉専用種	交雑種	乳用種													
保証基準価格	541,000	320,000	274,000	164,000													
合理化目標価格	429,000	253,000	216,000	110,000													
肉用子牛生産者補給金制度運営適正化事業 （農畜産業振興機構）	<p>肉用子牛生産者補給金制度に係わる業務の適正な実施等を図るため、J A等事務委託先の協力を得て、生産者補給金交付契約及び個体登録、負担金の受入・基金造成・補給金の交付、契約肉用牛の販売・保留確認、家畜市場データの収集・整理、事務委託先及び契約生産者に係る現地調査・指導を実施した。</p>	事業委託先 農協等 6団体 （8 J A統合による）															
指定協会運営体制支援事業 （農畜産業振興機構）	<p>肉用子牛生産者補給金制度の運営体制の強化を図るための推進活動。</p>																
黒毛和種新規契約奨励事業 （岡山県畜産協会）	<p>肉用子牛生産者補給金制度への加入促進を図るため、新規又は前業務対象年を上回って個体登録する契約生産者に対し、奨励金として交付（生産者負担金相当額（400円）を助成）した。</p>	契約生産者 20名 交付頭数 118頭 交付額 47千円															
肉豚価格安定事業 （岡山県・全農） 肉豚経営安定交付金制度 （農畜産業振興機構）	<p>養豚経営の安定を図るため、農畜産業振興機構や生産者等が基金を造成し、平均収益が平均生産コスト（四半期毎に算定）を下回った場合に、その差額の9割について補填金を交付する制度であるが、豚価が堅調であったため交付はなかった。</p> <p>負担金の額 機構：生産者等＝1,200円：400円 （事業実施期間 3年間 平成30～令和2年度）</p>	事業登録頭数 58,914頭															

3) 継続事業3

畜産物の生産衛生に係る技術指導及び自衛防疫の推進並びに死亡獣畜の適正処理に関する支援を以下のとおり実施した。

事業名	事業概要	実施内容
総合食料対策事業 (岡山県)	家畜衛生対策の推進を図るため、農家の防疫対策実態調査、農家・畜産関係者等への広報、ワクチンの接種推進を行った。	防疫対策実態調査 広報部数 2,000部
特定疾病自衛防疫 推進事業 (岡山県)	県の補助によりワクチン接種を組織的に実施し、鶏ニューカッスル病の発生予防を支援した。	実施羽数 鶏 15,141千羽
家畜生産農場衛生 対策事業 (農林水産省)	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーネ病対策 ヨーネ病発生農場の患畜と疫学的に関連が高い牛のとう汰に対して助成するが、発生が無かった。 ・牛伝染性リンパ腫対策 牛伝染性リンパ腫感染拡大防止を図るため、発生農場等での陽性牛を確認するための検査に助成した。感染源となる高リスク牛のとう汰への助成は要望が無かった。 ・牛ウイルス性下痢（BVD）対策 感染拡大を図るため、P I 牛（ウイルスを持続して保有・排出し、感染源となる牛）を摘発する検査を行うと共に、摘発農場でのワクチン接種、P I 牛のとう汰に対して助成した。 ・農場飼養衛生管理強化対策 飼養衛生管理を向上させるため、指導チェック表を作成し、指定獣医師等による農場指導を行った。 ・伝染病発生防止の推進 家畜の伝染性疾病の発生、流行防止を推進するため牛異常産ワクチンの接種を推進した。 	検討会議等 7回 牛伝染性リンパ腫検査 1,700頭 P I 牛摘発検査 627頭 ワクチン接種 0頭 P I 牛のとう汰 6頭 農場巡回指導 170戸×2回 牛異常産ワクチン接種 11,389頭
家畜防疫互助基金 支援事業 (農畜産業振興機構)	口蹄疫等海外悪性伝染病の発生に備え、生産者の損失を互助補償するための基金造成事業。 今期実施期間（平成30～令和2年度） 本年度は、今期実施期間の最終年度であり、変更、新規の加入促進を図った。	加入戸数(2年度末) 牛 342戸 乳用牛 165戸 肉用牛 177戸 豚 7戸 農家積立金 11,275千円
牛疾病検査円滑化 推進対策事業 (農林水産省)	B S E の浸潤状況を把握し、防疫体制を検証するため、協議会を開催するとともに、事業対象農家に輸送費、処理費を補助した。（対象牛96ヵ月齢以上および48ヵ月齢以上の起立不能牛等）	協議会 1回 死亡牛処理頭数 151頭

(4) その他事業

1) その他事業1

畜産経営の安定に資するため、経営技術支援、調査、情報提供、技術知識の普及啓発事業を以下のとおり実施した。

事業名	事業概要
畜産経営技術指導事業 (地方競馬全国協会)	本協会が取り組んでいる、①国際化に対応しうる競争力の高い担い手の育成・確保に取り組む業務、②消費者に対する地域畜産の理解の増進業務、③馬事畜産振興普及啓発業務、④畜産を核とした地域の活性化業務に対し、活動費の不足分に対して補助を得た。

2) その他事業2

畜産経営の安定に資するための各種補填金、補給金を交付する事業を補完するための事業を以下のとおり実施した。

事業名	事業概要	実施内容
マル緊特別事業 (岡山県畜産協会)	肉用牛肥育経営安定交付金制度を補完し、円滑に事業を推進するため、事務委託先に対する支援や調査・指導等を実施した。	事務委託先 4カ所
肉用子牛価格安定対策特別事業 (岡山県畜産協会)	肉用子牛生産者補給金制度を補完し、登録業務の円滑な実施に努めた。また、本制度に係る電算システムが老朽化したため、再整備を図り、効率的かつ適正な運用に努めた。	個体登録頭数 7,025頭 新システム導入

3) その他事業3

自衛防疫の推進並びに死亡獣畜の適正処理を円滑に実施するための事業を以下のとおり実施した。

事業名	事業概要	実施内容
予防注射事業 (岡山県畜産協会)	家畜の伝染性疾病の発生を防止するため、各種予防注射を計画的に実施した。 <主なワクチン接種実績> 牛異常産3種混合 1,612頭 牛異常産4種混合 9,736頭 牛IBR5種混合 3,127頭 牛IBR6種混合 5,278頭 馬インフルエンザ 89頭 鶏(ND、NB) 15,141千羽	実施頭羽数 牛 34,960頭 馬 124頭 豚 1,696頭 鶏 15,141千羽
岡山県家畜衛生管理センター維持管理業務 (岡山県)	死亡した牛のBSE検査のため岡山県の設置した集荷採材保管施設の維持管理業務を受託し、円滑な運営を行った。	検査対象牛頭数 153頭

4) その他事業4

生乳取引の公正化並びに生乳品質向上のための検査を以下のとおり実施した。

事業名	事業概要	実施内容
生乳検査受託事業 生乳格付検査事業 (中国生乳販連)	中国生乳販売農業協同組合連合会と畜産協会による業務委託に基づき、生乳の格付検査を行い、生乳の公正かつ円滑な取引と品質向上に努めた。 (格付受託検査) ・検査回数：3回／月（上旬・中旬・下旬） ・乳業者：オハヨー乳業(株)他中国地区内乳業者 ・検査乳量：15,903トﾝ程度／月 ・検査料：0.05円／kg	総検査乳量 190,832トﾝ
生乳成分検査事業 (中国生乳販連)	中国生乳販売農業協同組合連合会等からの受託により、生産者ごとの乳成分や細菌数の検査及び牛群検定農家個体別乳成分検査を行い、乳牛の飼育管理や乳質の向上に努めた。 (検査項目) 脂肪率・蛋白質・乳糖・無脂乳固形分率・全乳固形分率・体細胞数・細菌数 (検査料) ・取引検査：0.1円／kg（農家生産量） (農家別分配・細菌検査) ・牛群検定検査：50円／件 ・指導検査：100円／件 ・組合員外検査：1,500円／件	農家別分配・細菌検査 292,838トﾝ 牛群検定検査 219,915件 指導検査 35,167件 組合員外検査 999件

5) その他事業のその他

本協会の設立目的を達成するため、以下事業を実施した。

事業名	事業概要	実施内容
畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（畜産クラスター機械導入事業）（中央畜産会）	地域の畜産関係者が有機的に連携・結集して地域一帯となって畜産の収益性の向上を図る畜産クラスターの仕組みを活用し、畜産クラスター計画を策定して、生産コストの低減、畜産物の高付加価値化、飼料自給率の向上等に取り組む畜産クラスター協議会の取り組みに対し、公益社団法人中央畜産会が支援を行う業務の一部を県窓口団体として実施し、事業の推進、参加申請書の取りまとめ業務等を行った。	導入要望調査 1回 R2年度割当額 協議会数 7 機械件数 81 補助金額 266,780千円
畜産クラスター推進全国実態調査事業（中央畜産会）	畜産クラスターに係る取り組みを推進するため、先進的な経営体を対象に経営調査を実施した。	調査実施農家 酪農家 5戸 肉用牛繁殖農家 5戸
近代化リース調査事業（近代化リース協会）	（公財）畜産近代化リース協会が農家に貸し付けた機械施設の確認と適正な利用推進巡回指導を行った。	確認指導 23戸 37物件
県産飼料広域流通推進事業（岡山県）	ICTを活用した飼料収穫作業管理支援システムの実証を行うとともに、県産飼料の広域流通を推進するための意見交換会及びコントラクター等を対象にした技術研修会を開催した。 ○コントラクターによる収穫面積（R2） WCS用稲：302.5ha（R1：304.0ha）	システム検討会 3回 意見交換会 2回 技術研修会 1回
環境負荷軽減型酪農経営支援事業（中国四国農政局）	おかやま酪農協組合員以外の酪農家を対象に奨励金を交付するための要件である環境負荷軽減の取組内容の確認等を行った。	事業参加者 3名 奨励金交付額 972千円
畜産女性経営者育成強化事業（畜産女性経営者の地域育成支援事業）（中央畜産会）	畜産に携わる女性が地域のリーダーとして活躍するために、若手女性経営者を対象に経営管理や飼養技術等について勉強会を開催した。	研修会 4回 地域間交流 1回
畜産経営体生産性向上対策事業（中央畜産会）	畜産農家の労働負担軽減・省力化に資する機械装置の導入を支援した。	推進会議の開催 3回 現地調査 10回 対象経営体 7件 補助金額 11,892千円
酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業（中央畜産会）	酪農家における労働負担軽減に資するため省力化機械装置の導入と一体的な施設の整備を支援する。あわせて、乳用後継牛育成の負担軽減のため、育成牛の受入体制の強化を図る取組等を支援した。	畜産応援会議の運営支援

事業名	事業概要	実施内容
肥育牛経営等緊急支援特別対策事業 (肥育生産支援事業) (中央畜産会) 【新規】	新型コロナウイルス感染症の拡大により畜産経営の悪化が懸念されたため、肥育生産の計画を作成し、経営の体質強化に資する取組メニューに2つ以上取り組んだ場合、出荷頭数に応じて2万円/頭を交付した。	奨励金交付頭数及び金額 肉専用種 2,549頭・50,980千円 交雑種 6,659頭・133,180千円 乳用種 1,919頭・38,380千円 合計 11,127頭・222,540千円
優良肉用子牛生産推進緊急対策事業 (農畜産業振興機構) 【新規】	肉用子牛の飼養頭数を維持するため、畜舎の環境改善や疾病の防止等を通して経営改善に取り組む肉用子牛生産者に対し、奨励金を交付するコロナ禍の緊急対策事業であるが、子牛価格が発動基準(A:60万円、B:57万円)を下回らなかったため、奨励金の交付はなかった。	契約者数 355戸
生産基盤拡大加速化事業(肉用牛) (全国肉用牛振興基金協会) 【新規】	牛肉の国内需要増加への対応と輸出の一層の拡大を目指すため、8取組主体等に対し事業推進を図り、育種価要件等を満たす繁殖雌牛を増頭した生産者に対し、飼養規模に応じて、1頭当たり246千円又は175千円を交付した。	補助金交付頭数及び金額 188頭、41,278千円 内訳：246千円×118頭 ＝29,028千円、175千円× 70頭＝12,250千円
養豚経営安定対策補完事業(農畜産業振興機構)	本県養豚経営の維持・発展に資するため、飼養管理技術向上研修会を実施した。	研修内容検討会議 3回 研修会 2回
和牛遺伝資源流出防止対策緊急支援事業(全国肉用牛振興基金協会) 【新規】	和牛遺伝資源の適正管理及び流出防止の観点から、本会が取組主体として一般社団法人家畜改良事業団岡山種雄牛センターに和牛精液等関連情報表示機器の導入支援を行うとともに、検討会を開催した。	精液等ストロー印字機一式補助金 3,250,000円 検討会 1回
馬伝染性疾病防疫推進対策事業 (中央畜産会)	競走馬以外の乗用馬等に馬インフルエンザワクチンの接種を推進した。	地域推進会議 1回 実施頭数 161頭
育成馬等予防接種推進事業 (中央畜産会)	競馬場入厩前の育成馬に馬インフルエンザ、日本脳炎、ゲタウイルス感染症、破傷風の予防注射を推進して、競走馬資源の涵養と競走馬生産の安定的な維持発展に役立てた。	1歳馬 7頭 2歳馬 31頭
地域自衛防疫推進事業 (中央畜産会)	岡山県等との共催で、高病原性鳥インフルエンザ、口蹄疫等に係る防疫演習を実施し、噴霧器、消毒薬等を提供した。	防疫演習 3回

事業名	事業概要	実施内容
地域農場HACCP認証支援事業 (中央畜産会)	農場HACCPの認証取得5農場のフォローアップ指導を行うとともに、3農場において構築を進めた。また、農場HACCPの構築や運用への理解を深めるため、農場HACCP認証制度研修会を開催する他、普及を図るため運用上の成果、課題等の普及推進協議会を開催した。	研修会 1回 普及推進協議会 1回 フォローアップ 5農場 (酪農3、肉用牛1、採卵鶏1) 構築指導 3農場 (肉用牛、採卵鶏2)
牛せき柱適正管理等推進事業(日本畜産副産物協会)	牛せき柱の適正な管理を実施した食肉事業者に対して適正管理促進費を交付した。	食肉事業者 9業者 対象頭数 13,677頭
家畜伝染性疾病清浄化支援事業(岡山県)	農場の飼育管理状況の調査、牛ウイルス性下痢(BVD)の防疫対策を推進するための啓発資料の配付等により、BVDに関する知識を普及啓発し、適切な飼育管理や検査、ワクチン接種を指導した。また、検査により摘発されたPI牛(ウイルスを持続して保有・排出し、感染源となる牛)のとう汰に助成金を交付した。	農場調査 30農場 啓発資料 1,000部 PI牛とう汰 6頭
畜産・酪農生産力強化対策事業(中央畜産会)	家畜の遺伝的能力を最大限に発揮させるための家畜生産性に係わるデータ収集と、生産性向上のためのデータ分析、技術指導に取り組んだ。	酪農家 3戸 和牛繁殖農家 2戸